

「秋田大学学生海外派遣支援事業」 帰国報告書

2013年1月30日

所属：教育文化学部国際言語文化課程 国際コミュニケーション選修4年

氏名：小野寺 暁人

派遣先大学（国）セント・クラウド州立大学（アメリカ合衆国）

派遣身分：交換留学生

派遣期間：2013年1月8日～2013年12月20日

渡航年月日：2013年1月4日

帰国年月日：2013年12月29日

1. 派遣先大学における授業などの履修状況

授業コード	授業名	履修期間	講義時間（週）	取得単位数
ENGL462	TESL Method:Rdg/Wrtg	Spring 2013	3時間	3.00
ESL151	Admin Orie Intl Student	Spring 2013	1時間	1.00
ESL201	Listen/Speak AcadPurpose	Spring 2013	4時間	4.00
ESL201	Reading and Writing II	Spring 2013	4時間	4.00
ECON205	Prin Macroeconomics	Fall 2013	3時間	3.00
TH336	Costume Constrution	Fall 2013	3時間	3.00
DANC196	Beginning Hip Hop	Fall 2013	2時間	2.00
ENGL191	Intro Rhetoricl/Analyt Wrt	Fall 2013	4時間	4.00

2. 研究・学習概要及び今後の勉学計画

セント・クラウド州立大学（以下、SCSU）では、前期はESLの授業（英語を第二言語として学習する学生のための、英語の基礎を学ぶ授業）を中心に単位を取りました。ESLの授業では、私と同じような留学生が、英語でのエッセイの書き方やプレゼンテーションの仕方など、大学の授業に必要な知識や技術を一緒に学びました。後期は自分が興味のある授業や秋田大学では取れない授

業、具体的にはヒップホップダンスの授業や衣装作成の授業を取りました。自分の専攻ではない授業を取れる事は、交換留学の良いところの一つだと思います。どの授業でも、学生一人一人が自分の意見をしっかり持ち、質問があるときは、先生が話していても手を挙げたり、話を遮って意見を述べたりすることが多く見られました。

今後は、卒業論文のテーマをアメリカで経験してきた事を生かして決定し、それを体系化していきたいと思います。

3. 生活面について

SCSU への留学生は1年間学生寮に入る事が義務づけられていて、基本的にはアメリカ人と2人でルームシェアをしていました。色々な違いをお互い認め合って暮らすことは大変な事でもあり、楽しい事でもありました。食生活は、学食があつて、寮に住んでいる学生の大半はそこで食事を済ませます。日本の学食との大きな違いは、一食8ドルくらいで少し高いですが、ビュッフェ形式の食べ放題という点だと思います。ちなみに日本食はなかなか食べられるところが少ないです。気候は、夏は湿気が少ないので日本よりは過ごしやすく、冬はすごく寒く、最高気温が-10℃以下というときも少なくありません。

同じ寮の友達と体育館でバスケットボール



4. その他の生活

アメリカでは多くの事をさせていただきましたが、特に印象に残っている事が2つあります。1つはJP Network(日本人サークル)、2つ目は夏休みのロサンゼルスでのインターンシップです。JP Network は日本に興味がある学生のサークルで、留学が始まってすぐに行われた Japan Night という大きなイベントにも運営側として参加させていただきました。主に、日本の文化を伝える為の、ダンス、ファッションショー、劇などを行い400人以上のお客さんが学内外から参加しました。また、後期からはサークルの会計となり、団体のお金を管理するだけではなく、Cultural Café という規模の小さな Japan Night の企画も

インターンシップ中のお店のパーティーの写真



行いました。英語を使つての仕事には苦勞する事もありましたが、お客さんや同僚とのコミュニケーションを通して、アパレルで働く事の難しさよりも楽しさを感じられることがすごく多かったです。

*** 最後に**

最初は英語力を向上させたいという思いで始めたアメリカへの留学でしたが、留学を通して、目的が英語ではなく、英語を使って多くのことを知りたいというように変わりました。そして、留学を通して、英語を通して分かった一番大きなことは、日本が本当にすばらしい国だということでした。私はこれから大学を卒業し、社会へ出たときに世界で仕事をしていきたいと考えています。そのときに、日本人であることを誇りに思い、日本人の良いところを世界に広めていきたいです。最後になりましたが、このような機会とサポートをいただいたすべての人に感謝したいと思います。ありがとうございました。



Japan Night でソーラン節を踊る